

ドナーからの骨髓採取後の 後腹膜血腫の形成について

本件に関するお問い合わせ先
理事・企画管理委員会委員長 小寺 良尚(よしひさ)
事務局 埴岡 (はにおか) 健一
電話 03-3355-5043

報道各位

このたび、非血縁骨髓ドナーからの骨髓採取において、かなり大きな血腫ができるという健康被害が発生しましたのでご報告します。

9月下旬にドナーからの骨髓採取が実施されました。骨髓採取終了後、下腹部痛を訴えられレントゲン撮影、CT スキャンなどの検査を実施し、後腹膜部位に血腫があること（腹膜と腹壁の間の部分に出血した血液の固まりがあること）が確認されました。

ドナーのヘモグロビン値は一時、6.7g/dlまで低下（骨髓採取前のヘモグロビン値は12.3g/dl）し、さらにヘモグロビン値が下がった場合には輸血が必要になる可能性が検討されましたが、その後、ヘモグロビン値は上昇に向かい輸血の必要はありませんでした。大量の出血があったものの、出血は早期に止まっていたと考えられます。10月2日午後現在でヘモグロビン値は8g/dl台まで回復しており、快方に向かっています。

なお、骨髓採取が完了した後に出血が認められたもので、採取は完了し、患者のもとに無事に骨髓は届き移植が完了しています。

今回の事例は、骨髓採取の際に発生したと考えられ、採取針が骨髓採取をする近辺の血管を傷つけたことも1つの可能性として否定できません。骨髓採取による後腹膜血腫の事例は、日本の骨髓バンクのドナーではこれまでに起こったことがありません。海外では、IBMTR（国際骨髓移植登録機構）の集計（血縁、非血縁）で、1980年から1989年の約8300例のうちで1例発生したことが報告されています。

当財団では、現在、原因を究明しているところですが、当該施設における骨髓採取を原因が明らかになり対策が講じられるまでの間、停止することとしました。また、各採取施設に対し、骨髓穿刺（採取のために針を刺すこと）の部位と深さに十分注意するよう、緊急安全情報を発出いたしました。

***報道各位へのお願い**

・当該ドナー候補の方については、プライバシー保護のため、これ以上の情報をお伝えできませんので、ご了承ください。ドナー候補への取材や、ドナー候補の特定につながるような報道は差し控えていただきますようお願いいたします。

・この提供についての当該患者に関しては、患者とドナーの特定につながる恐れがあるため、情報をお伝えできませんのでご了承ください。当該患者の特定につながるような取材や報道は差し控えていただきますようお願いいたします。

・骨髄バンクでは今回のことも含め、ドナーのリスク情報については、できるだけ情報開示に努めております。ただし、重大な事態が起こる危険性が必要以上に強調されますと、現在、進行中のコーディネート事例が突然キャンセルされるなどの必要以上の影響がおよぶ恐れがあります。その場合、すでに前処置に入られている患者さんも多数いることから、患者の生命に重大な危険性を引き起こす可能性もあります。慎重なご報道を心からお願い申し上げます。